

尾呂志学園のめざす小中連携教育

平成 24 年度

視点 1： 児童生徒の連携

＝さまざまな教育活動における子どもたちの連携＝

尾呂志学園では、児童生徒が、さまざまな場面で協働し、お互いに影響や刺激を与えあいながら、それぞれの発達段階に応じた役割を果たすことにより、児童生徒一人ひとりの成長や発達につながる教育活動の連携をめざします。

○小学生が中学生と関わりを持つことで…

小学生が中学生と一緒に活動する中で、中学生の創造力や企画力・実践力を目の当たりにすることにより、その先輩への憧れなどを自分自身の「やる気」へとつながる刺激や動機付けにすることができます。つまり、「中学生になったら、自分たちも尾呂志学園の伝統を受け継いで頑張ろう」という意欲や目的意識を持たせることができ、その向上心が子どもたちの小学校生活をより充実させていくこととなります。

尾呂志学園では、このようなねらいを持って小中連携に取り組み、小学生が中学生と関わりを持って活動できる場面や環境を積極的に設定することにより、児童一人ひとりの成長や発達を支援（指導）します。

○中学生が小学生と関わりを持つことで…

中学生が小学生と一緒に活動する中では、小学生に対して一方的な説明や指導をするだけでは当然スムーズな運営はできません。逆に小学生と同じ目線に立って、相手の理解の様子を見ながら説明や表現ができていかなどを確かめながら、フォローしていくことがとても大切であるということを切実に実感することができます。つまり、小学生と一緒に活動に取り組む体験や学習を積み重ねることが、日常的に相手の立場に立って物事を考える姿勢や思いやりを育むことになり、人権意識の向上につながることとなります。

尾呂志学園では、このようなねらいを持って小中連携に取り組み、中学生が小学生と関わりを持って活動できる場面や環境を積極的に設定することにより、生徒一人ひとりの成長や発達を支援（指導）します。

○小中合同の運動会や文化祭などの行事

○小学生の部活動参加

○米作り体験学習（中学 1・2 年生から小 1・2 年生への田植え説明会など）

○読書タイム（中学生から小学 1・2 年生へ本の読み聞かせ）

など

視点2： 教師の連携

＝学習指導面（授業を中心に）における教師間の小中連携＝

尾呂志学園では、小・中の教師が、児童生徒の9年間の成長や発達に直接的に関わることにより、できるだけ小学校の複式授業を解消し、さらに少人数指導のメリットを活かしながら、一人ひとりの児童生徒の学力の定着と向上につながる系統的な学習指導の連携をめざします。

○小学校の教師が中学生を指導することで…

小学校の教師が中学校で授業を行い、中学生の学力や学習状況を把握することにより、その生徒が小学生だったときの自分の指導（授業）に対する検証を行うことができます。そして、その検証によって明らかになった成果と課題を、現在の小学校での授業にフィードバックして授業改善につなげることができます。

尾呂志学園では、このようなねらいを持って小学校側からの小中連携に取り組み、6年間だけではなく小学校の視点から小中9年間を見通した学習指導の展開をめざします。

○中学校の教師が小学生を指導することで…

中学校の教師が小学校で担当教科の授業を行い、小学校での学習内容を把握したり、一人ひとりの児童への理解を深めたりすることにより、その児童が中学校へ進学したときの指導（授業）へとスムーズにステップアップさせていくことができます。また、中学校の教師にとって小学生の発達段階に応じたていねいな指導方法を経験できることも、スムーズな小中の接続（中1ギャップの解消も）のためには大きなメリットと言えます。

尾呂志学園では、このようなねらいを持って中学校側からの小中連携に取り組み、3年間だけではなく、中学校の視点から9年間を見通した学習指導の展開をめざします。

○小中学校教員の兼務発令による授業交流の推進

《小→中》 徳田教諭…中1・2・3年 体育（チーム・ティーチング）

荘司教諭…中1・3年 国語（チーム・ティーチング）

《中→小》 久保教諭…小5年 社会 前 教諭…小6年 理科

登立教諭…小2年 国語 浦坪講師…小6年 外国語活動

鈴木講師…小4年 社会、小5年 算数、小6年 国語

○全教員による小中が連携した授業研究や校内研修の推進

小（中）学校の授業研究や校内研修へ中（小）学校教員が主体的に参加する。（小中それぞれの教育課題が異なるので、原則として小中別の研修体制をとる。ただし、必要に応じて小中合同の研修も実施する。）